



# 日耳鼻医学会 F A X ニュース NO 172

平成23年1月1日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimujenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

## 謹んで新年のお喜びを 申し上げます

旧年中のご厚誼に心よりお礼申し上げます  
本年も昨年同様のご支援ご協力を  
宜しくお願い申し上げます  
平成23年元旦

(特)日本耳鼻咽喉科医学会  
理事長 石山英一 他役員委員一同

### 年頭のご挨拶 理事長石山英一

年頭にあたり会員諸先生方の御健康と御家族皆々様の御発展を心よりお祈り申し上げます。

さて、先生方先刻御承知の通りの事ですが、今回(2010年度の診療報酬の改定)は民主党政権下での初めての改定であった為、多大の期待を持ちましたが、現実には厳しく、限らないゼロ改定に近いものでありました。(政府発表は0.19%プラス改定)その後の各機関よりの改定検証では、耳鼻咽喉科、眼科及び皮膚科にとっては常用検査点数の大巾な減点があった為その被害は甚大でありました。

昨年12月中旬発表になった2011年度の国家予算規模は92兆円であり、その内税収見込みは41兆円、新規国債発行額は44.2兆円であり、その他を埋蔵金頼みとする事が発表されました。又発表された国民総医療費は34兆8081億円であり、国の税収41兆円の84.8%に及ぶ事が発表されております。厭なことです。消費税を上げる事が見込まれない中で、国家予算は財源に対する裏打ちがなされていないので、医療費の増加を望む事自体無理な事かも知れません。医療の今後も極めて厳しい事でしょう。今後も長く茨の道が続く事でしょう。我々も心して真摯に毎日の診療に取り組みなければならぬと思います。

医療費削減政策が続く中で、厚労省の指導で始まった新指導大綱に沿った保険指導で地区の平均点より高い上位8%の医療機関に指導とそれが2年続く場合の監査等がおこなわれておりますが、これらに対する正確な情報を迅速に会員各位に通知したいと思います。また、各地区医会単位の特有な活動(検診事業、休日急病診療事業、学校医活動、感染症対策、特に予防接種、その他)の正確な情報を遅滞なく各地区医会に出したいと思います。

関係各先生方には本年もどうぞ宜しくご支援御協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

### 事業税軽減措置は存続、医療法人税3%引き下げ

2011年度税制改正

社会保険診療報酬を除いた医療法人の所得にかかる事業税の税率を軽減する措置を2011年度も存続させる事が12月3日の政府税制調査会で決まった。来年度、引き続き政府税調で存廃を議論する。事業税は2010年度税制改正大綱で「今年1年間真摯に議論し結論を得る」とされていたため、医療関係者はその動向を注目していたが、非課税措置、軽減措置のいずれも11年度は存続という結論になった。来年度の政府税調で再び議論することになり、医療機関にとっての懸念は依然として残る結果となった。

11年度の存続の理由について鈴木総務副大臣は会見で「翌年が制度改正(診療報酬改定)の年であることや、党からの要望も踏まえ総合的に判断した」と述べた。また、高額な医療用機器にかかる特別償却制度の適用期限の延長、

医療安全に資する医療機器等の導入にかかる特別償却制度の適用期限の延長は、償却率の引き下げや対象設備の見直しを行うことを条件に2年延長が決まった。また12月16日、「2011年税制改正大綱」を閣議決定、法人実効税率を5%引き下げることに伴い、医療法人の法人税率も一律3%引き下げる事が決まった。(12月8・20日 JapanMedicine)

### 鼻に噴射「有効」 インフルワクチン

国立感染症研究所の長谷川室長らと阪大微生物病研究会の研究チームは、インフルワクチンを鼻の粘膜に吹き付けて、ウイルスに対する免疫が高まる効果を臨床研究で確認した。鼻に噴射したのは「A香港型」の季節性インフルワクチン。20~60歳代の健康な男性5人で、免疫の効果を示す抗体の量を調べた。3週間の間隔をあけて2回吹き付けたところ、鼻汁に含まれる抗体が感染予防に十分とされる量まで増えた。また4回噴射すると、血液中の抗体も増加した。副作用は見られなかったという。また鼻へ噴射するタイプは複数の種類の抗体が増えるため、多少の遺伝子変異でも同様の予防効果があるという。注射に比べて負担が少ない上、感染予防の効果が高いと期待される。(12月14日、日経新聞)

### 「品質に不安」が上位に 後発品への変更不可理由

厚労省は12月8日の中医協・改定結果検証調査の速報を示した。医師を対象にした調査では、処方箋の「後発品への変更不可」欄に署名した理由として、後発品の品質に対する不安などが上位に入った。「変更不可欄」に署名した経験のある医師は病院・診療所とも約3割。理由で最も多かったのは「後発品の品質が不安」。その他「患者からの強い要望」「先発品を長く使用し信頼している」などが上位だった。

入院患者に対して後発品を「積極的に使用している」と回答した医療機関は病院45.1%、診療所22.1%。後発品使用によって病院の24.0%、診療所の4.4%が「問題が生じたことがある」と回答。具体的に生じた問題は「供給体制上の問題」が最多であった。(12月13日 JapanMedicine)



### 「継続は力 フォーラムに 集い更なる団結と飛躍を」

第36回臨床家フォーラムは群馬県耳鼻咽喉科医学会(会長 森 喜一先生)が担当して本年8月27日(土)・28日(日)の二日間、高崎市のホテルメトロポリタン高崎で開催される。



### 定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

# アラミスト® 点鼻液27.5µg 56噴霧用

## Allermist® 27.5µg 56metered Nasal Spray

 フルチカゾンフランカルボン酸  
エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) グラクソ・スミスクライン株式会社 グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先  
TEL: 0120-561-007(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)  
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル FAX: 0120-561-047(24時間受付)

2010.5